

菰野町都市マスタープラン パブリックコメント意見回答

	該当箇所	意見	回答
1	<p>全体構想 1-2 本町を取り巻く社会状況の変化</p>	<p>これまで、本町で取り組んできた施策の成果と多くの自治体が地方創生と題して種々の施策が展開されているものの大きな効果が得られていない現状を踏まえた都市構想が求められているのではないのでしょうか。 また、今後20年後の変化をより具体的な方向性を示し、先取りした課題も大変重要な要素ではないのでしょうか。 その取り組みとして、今後20年後の変化を予想する中で現時点でも動き出している</p> <p>①AIを活用した</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通システム ・農業事業の変革 ・企業の働き方改革 ・教育を含めた社会システムの変革 <p>などが予想される中で本町の課題への取り組みが薄いように思われます。</p> <p>②5Gの普及を活用した</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GISの利用拡大による災害リスクへの対応や、エネルギー供給や物流、その他の幅広い経済社会システムにおける危機管理社会システム構築に向けた課題の抽出 ・行政サービス拠点のあり方 <p>などの取り組みの方向性が不透明ではないのでしょうか。</p> <p>③デジタル化のさらなる進展に整合した</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政サービスと都市構造とのマッチング ・都市運営コストに配慮した都市構造 <p>など、先取りした課題も大変重要な要素ではないのでしょうか。</p>	<p>AI等の新技術分野での取り組みは、今後、まちづくりを含めた様々な分野において取り入れていくことが求められている重要な要素と考えます。 こうした新技術への対応については、全体構想の1-2「本町を取り巻く社会状況の変化」、2-3「まちづくりの将来像」の中に反映いたします。</p>
2	<p>全体構想 1-2 本町を取り巻く社会状況の変化 ～ 1-5 まちづくりの課題</p>	<p>1-2本町を取り巻く社会状況の変化から1-5まちづくりの課題に至る状況分析や予測に関して、既マスタープラン(現行計画)の目標・課題や住民ニーズ等について、10年後の変化や達成状況等の分析・考察を考慮したうえで次期計画の課題の抽出・目標設定等に反映させることが必要ではないのでしょうか。</p>	<p>課題の整理にあたっては、現行計画の達成状況や、本町の現状、町民ニーズ、現行計画策定以降の社会的変化や将来見通し等を考慮し、整理しております。</p>
3	<p>全体構想 2-4 まちづくりの目標 3-1 土地利用の方針</p>	<p>健やかな子育て環境を創出し、暮らしやすさを実感できるまちづくりには、市街化調整区域や都市計画区域外に有する様々な人や資源が効率的・効果的に連携しながら、豊かな生活を育むことのできるコンパクト+ネットワークが形成されたまちを目指します。 とありますが、大型商業機能や高次医療機能などは近隣都市とのネットワーク確保・充実等を図りつつ、補完関係及び機能分担が図れるまちづくりが必要ではないのでしょうか。 また、少子化の制動には、子育て環境の改善や食の安全安心を味わえるまちづくりを前面に出すことも重要かと思えます。 そのために、循環型農業による食の安全や給食の自給率向上とともに低炭素化を進めるなどの新たな産業を形成するまちづくりも必要ではないのでしょうか。 本件は、<3-1 土地利用の方針(1)土地利用の方針⑩産業エリア>にもつながり、産業誘導の後押しするものとなると思います。</p>	<p>少子高齢化・人口減少社会に対応するため、大規模商業施設や高度医療などの都市機能については、既存ストックを活用した効率的な運用が求められております。そのため、広域的な視点に立った三重県が策定する計画により進められており、都市マスタープランにおいては三重県の計画に即して方向性を示しております。 さらに、まちづくりの将来像として公共施設等の都市機能を効率的に運用するため、コンパクト+多極ネットワーク型のまちづくりを目標として設定しています。 また、子育て環境の改善や食の安全安心などについては、福祉や農業分野の施策となりますので、参考にさせていただきます。</p>
4	<p>全体構想 2-6 将来フレーム</p>	<p>令和13年の新たな商業用地を約 28.8haを推定するに当たり、H14～H24の下降傾向のトレンドに注目することなく、H26の特異と思われるデータを査定することなく、そのまま伸ばしてトレンドとすることは、特別の背景があるのでしょうか。あれば、それを明記してはどうでしょうか。 特別なものがないのであれば、考え方の整理が必要ではないのでしょうか。</p>	<p>推計では現行計画の計画期間である実績値を考慮し推計しています。従って、下降傾向やH26年度のデータも考慮したものとなっております。</p>

	該当箇所	意見	回答
5	全体構想 3-1 土地利用の方針	<p>市街化調整区域の集落エリア内で急増と思われる空家・空地、耕作放棄地について、転入希望者が利活用できるよう、制度を整えてください。</p> <p>本プランでは、市街化調整区域内の集落エリアについて、「既存の集落環境の保全を促進するとともに、集落活性化のために有効な土地利用の誘導に努める」とされ、その内容として「必要な利便設備の設置誘導」と「地域内未利用地を活用して、宅地等へ転換する」が例示されています。この趣旨に沿って、一日も早く次の行動を起こしてください。</p> <p>1. 転入希望者の住宅建築を妨げている規制を見直して、建築可能とする。 ア まず、既存宅地は無条件で住宅建築可 イ 次に、農家の住宅の宅地は広すぎるので、分割・複数戸建築可 ウ あわせて隣接する農地(屋敷畑)も含めて菜園付住宅を可</p> <p>2. 処分希望者と転入希望者が利用しやすい「あっせん制度」を作りましょう。 空家・空地や集落内農地を処分したい人(遠隔地の人もいる)も、転入希望者も個人で相手を見つけるのはなかなか難しい現状だと思います。独自にあっせん制度を作り、受け入れを広報すれば転入促進、空き家予防=集落維持に有効な手段となります。</p>	市街化調整区域内の既存集落については、空家・空地の有効利用や各種制度等を活用し、集落の維持に努めていきます。
6	全体構想 3-1 土地利用の方針	<p>菰野IC周辺は市街化調整区域から工業系地域に変わるところがあるのは聞いていますが、周辺全部ではなく、一部の場所だと聞いています。</p> <p>正確な場所はまだ調べていないですが、地元の人が事業をするために調整区域でも特例で許可が出るようにしてほしい。菰野町は市街化調整区域が多く、2年前に会社を設立したにもかかわらず、本格的に始動できずにいます。もう少し地元の人だけでも緩和されることを望んでいます。</p>	<p>新名神高速道路菰野IC西側の音羽地区については、工業・流通系の立地誘導を推進するエリアとしています。</p> <p>また、市街化調整区域において建築できる建築物は都市計画法に定められたものとなります。</p>
7	全体構想 3-1 土地利用の方針	<p>既存の住宅地では、必然的に空家・空地が発生します。住環境を守るには、利用されない既存住宅の活用を最優先すべきです。市街化区域では市場に任せても転入は確保できるかもしれませんが、市街化調整区域の集落エリアでは放置すれば集落の存続にもかわりかねません。</p> <p>「利用予定のない宅地を使いたい人に」 阻む要因を除き、活用を促す具体的な施策が必要です。 「とにかく早く手を打つこと」 菰野町は転入超過が続き、幸い今のところ転出先としての魅力があると思われます。その優位性のあるうちに、集落エリアへの転入が進むよう手を打ち始めてください。</p>	<p>人口減少等により進行する空家・空地問題は全国的に懸念されています。本町でも、市街化調整区域内の既存集落については、空家・空地の有効利用や各種制度等を活用し、集落の維持に努めていきます。</p>
8	全体構想 3-1 土地利用の方針	<p>都市計画区域外となるために建築物はまとまりがなく乱雑に建築されている。国道306号、県道四日市菰野大安線の沿道はすべて農用地であるため開発ができない。当地区は生活に必要な施設が少ないため、過疎化が進んでいる。今後世帯数が減少し空家対策が必要となってくると予測されることから住宅を建築するための比較的大きな宅地開発(ミニ開発程度でよい)は必要としない。若者が地元で雇用に波及されるハイテク工場、物流センター、観光商業施設の開発を目的とした方がよい。当地域の豊かな自然環境の景観を損なわない範囲で求めるに最小限の都市計画を見直し、特に国道306号、県道四日市菰野大安線の沿道は都市計画に合わせて開発(生活に必要な施設)を可能にして活性化してほしい。</p>	<p>都市計画区域外は、農林業等による法規制に基づき、土地利用がコントロールされています。このため、関連分野とも調整し、取り組むこととしております。</p>
9	全体構想 3-3 交通施設の整備方針	<p>大字永井地内の狐塚橋付近の県道永井保々停車場線の交差点で、県道永井保々停車場線を道路線形なりに北に向けて整備し、北勢中央公園を抜けて員弁街道に接続する道路整備ができないか。</p>	<p>北勢中央公園から員弁街道へのアクセス道路の設置は町外の土地利用に関わる事項であるため、今後の課題として参考にさせていただきます。</p>
10	全体構想 3-4 都市・田園環境の保全方針	<p>農林地の保全や農村景観の維持について(誰が守るのか) これらは従来農林業の経済活動の継続によって維持されてきました。ところが、今では農家(農地を持つ人)は多くても、農作業をする人はごく少数です。ひと握りの担い手が広い水田を守っています。彼らだけにこれらを押し付けておいていいのでしょうか。(経済活動ですからもやめられます。)難しいですが、利益を享受している人がそれぞれ少しずつでもかかわって保全していく仕組みを考えねばならないと思います。</p>	<p>農業施策に関わる内容となりますので、都市マスタープランにおいて示すものではなく、個別計画において検討することになります。</p>

	該当箇所	意見	回答
11	全体構想 地域別構想 4-5 朝上地域	マスタープランが漠然としたものでありよく解からなかった。あくまで構想であるため実態として見えてこない。当地区の発展につなげていくべきものでもあります。区長会で協力できるものもあると思いますが、意見を聴取し共有、協力しながらより具体的な構想の方向性や計画決定をお願いいたします。	都市マスタープランは、将来を見据えたまちづくりの基本方針となります。今後の具体的な取り組みは、個別計画で検討していくこととなりますので、地域の皆様のご協力をお願いいたします。
12	地域別構想 4-5 朝上地域	都市計画区域外なので工作物が無秩序に作られている。現況で拡幅の必要とする狭隘道路で、ブロック塀などが撤去できる場所は補助金を出して撤去してもらい道路として寄贈してもらうようにすることが望ましい。またブロック塀、門扉が住宅建築後に加工されるのが多いので新築、増改築の建築概要書が出されたら全体の土地利用図も提出させ工作物の場所の確認もして拡幅できるよう指導した方がよい。思い切ってやらないと進まない。	都市マスタープランは基本的な方針を示すものであり、具体的な内容につきましては、ご意見として参考にさせていただきます。
13	地域別構想 4-5 朝上地域	マスタープランでは、朝上地区の世帯数は3,589軒とありますが、区に入会しているのは、2,220軒と約6割の方しか入会しておりません。区運営は、区入りした住民とそれ以外の住民が同居しており、若い者は、感情的に地域への入会に抵抗があるとした現状があります。また災害が発生した時でも、法律(災害救助法)で「被災者」や「救助を求めている方」への対応が急務であることを定義されている。そのことが通常の煩わしい地域の付き合い(区行事への参加)に参画しなくても、なんの不自由のなく生活できると判断し、区入りを拒否する住民が多くなっている。今後ことを熟慮した場合、菰野町としても自治会運営は重要な位置にあると思われるが、菰野町としてどのようにバックアップいただけるのか。	都市マスタープランは都市計画法に基づく都市計画に関する基本的な方針であり、主に土地利用に関する視点から記述しています。自治会活動等については、上位計画である総合計画等で示しております。
14	地域別構想 4-5 朝上地域	山地部へつなぐ町道福王線、町道江平切畑線、町道八風線等については、国道306号等とのネットワークの整備に努めます。の内容に関して、国道 306 号や県道四日市菰野大安線等の主要な幹線道路については、歩道整備や幅員確保等による道路機能の強化、渋滞対策等を県に要望します。を補完する具体的な取り組みとしてバイパス化を進めることにより、道路狭隘・渋滞対策としてはいかがでしょうか。	渋滞解消に向けては、多様な取り組みが想定され、都市マスタープランにおいては改善策を限定するような表現は控えております。
15	地域別構想 4-5 朝上地域	マスタープランでは、バスなどの公共交通に満足度が低いとあるが、その対応策に近鉄菰野駅や役場本庁や商業機能への公共交通の確保をバスやのりあいタクシーで補うと定義されています。実際に朝上地区の生活圏はどこなのかを調査し、その点を補足していかないと満足度が高くないかではないか。 例えば、田口・田口新田・小島・田光地区などの買い物や病院への生活圏を考察すると買い物は、いなべ市にあるオークワ・大安ジャスコ(大安町)、また病院は、いなべ総合病院・日下病院(北勢町)の利用者が多いと思われる。そこに「交通の足」を確保することにより住民の満足度が充実するのではないかと考えられる。 次に近鉄菰野駅への交通の便を充実すると定義付けられているが、田口新田・小島・田光・竹成等の鉄道利用者は、近鉄菰野駅へ出るよりも三岐鉄道の各駅(北勢中央公園口・保々・山城)に出る方が、便利であると思われる。実際三岐鉄道の利用者は1日80名以上あり、(定期券利用者での調査結果で、普通乗車券は未知数である) その多くは学生である。その理由を聞くと運賃は高いが車で行くには近い場所にある・無料駐車場が完備されていること等があげられている。ただ交通の便(コミバスの運行)がない事が不便さを感じており、満足度が得られないのである。生活圏を考えた利便性を考えないと充実した公共交通と言えないのではないか。 次に近鉄湯の山線の菰野町地内(菰野～湯の山温泉駅間)の駅は、年々利用客が減少傾向にある。このような路線は地方多くあり、費用対効果を考えると廃線・路線カットを選択しているのが実情である。全国の地方鉄道を見てきて鉄道路線をなくした町は、生活環境や安全性の評価が大きく減退し、人口減少につながる現象にある。菰野町として今後のどのように対処していくのか。	都市マスタープランでは、菰野町のまちづくりとして、学生や高齢者など多様な世代の利用を考慮し方針を示しているもので、町内の各地域の住民が通勤通学などのほか、図書館や保健福祉センターの利用などに活用するための公共交通の確保が重要と考えております。 また、鉄道については最も重要な交通インフラであり、利用者の増加を目指す施策を進めることが重要と考えております。 今後も地域公共交通会議等の中で、コミュニティバスを含めた地域全体の公共交通の在り方について検討していきます。

	該当箇所	意見	回答
16	地域別構想 4-5 朝上地域	当地区は西部に国定公園があり豊かな自然環境に恵まれている。また東部の平野部では農用地もたくさんあります。しかしながら当地区の農用地(畑)は獣害もあって耕作放棄されている土地が多い。一団の畑を獣害から守るべくフェンスで囲って農産物、林産物を作りその産物をさらに加工して製品化(土産物)し、荒廃した畑を観光農園として新しく産業の基盤を創ってほしいと願うばかりです。当地区の西部における自然環境を利用したレクリエーション施設や湯の山の温泉とともに融合した観光施設、観光農園地域として地域資源を考えながら土地利用を推進することにより豊かな自然環境が守れると思います。そんな意味で空家対策とともに総括的に施策を検討してほしいと思います。新しく若者の農業起業の起爆剤となるかもしれない。	空家等の管理・利用や農地の保全については、全体構想で示しており、具体的な内容は個別計画において検討することになります。
17	地域別構想 4-5 朝上地域	工場等の産業施設は雇用面から必要不可欠であるが、都市計画区域外のため無秩序な工場誘致でなく、現在ある工業団地の拡張による規模拡大を想定したものがいいと思います。また平野部で一団とした土地に線引きをして一団にまとめ新しく作る事もいいと思います。当地区の山麓地域に産業施設は森林開発、宅地開発で豊かな自然環境や景観に影響を及ぼすためよくないと思います。住民の雇用を前提とした優遇された優良企業の誘致を進めて若い人が定住して住み続ける希望が持てる企業誘致をお願いしたいと思います。	工業団地など産業系の開発については自然環境や居住環境、景観などと調和した土地利用を考えております。
18	地域別構想 4-5 朝上地域	当地区は西部にある国定公園に山麓部を介して平野部があります。当地区の西部では昨今の異常気象で記録的大雨がありました。福王神社の南の5haの国有林が伐採(皆伐)しており、砂防地域であり傾斜地であるがゆえに森林の伐採(皆伐)で土石流が起きて雨水の流域が崩壊したと思われる。森林を伐採(3ha以上の皆伐は危険)や開発することにより雨の保水能力がなくなり、雨水の流れる流域に増水、越水して土石流が流れて崩壊したのではないかと危惧しています。長年の間、下流の流域や河川に流出した土砂が堆積して記録的大雨における流出流量が排出されずに起きたもの考えられる。異常気象が続く今日、毎年災害が起きると言っても過言でない。数年前から依頼していることでもあり流域の堆積された土砂の浚渫、流域河川の浚渫、護岸整備がおこなわれていない現状を見ても不安である。さらに開発により太陽光のパネル設置をすることにより雨水の流出係数は1.0に近くなるといわれています。砂防地域でもある当地域の傾斜地は雨水の流出量が格段に増えて流出速度も速くなり土石流が起きやすいと思われる。規制のない開発(1ha以下)の林地も伐採、開発を多数行われれば膨大なはげ山となりうる。そのようなことを鑑みると林地における土地利用は森林の開発や伐採(特に皆伐)は雨水の流域や河川下流における排水の問題対策がなされていないように思う。今後の安全ために検証して整備をお願いしたいと思います。	山林・山麓部においては、森林の有する山地災害の防止、水源のかん養、地球温暖化の防止等の多面的機能を踏まえ、適正な維持・管理に努めるという方針を示しております。
19	地域別構想 4-5 朝上地域	当地区から南部にある町内重要施設を利用するには不便であり料金体系に不公平感がある。当地区の求めているものは何かということをもふまえて、地域的利用範囲を考え系統的に利便性を作ってほしいと思います。(駅、施設の拠点をもっと増やしていくことを希望)	公共交通については、少しでも地域の移動困難を解消できるよう、地域の皆様と協力しながら、引き続きサービス向上に努めていきます。
20	地域別構想 4-5 朝上地域	国道306号の集落内には狭隘道路が多く幅員確保することにより、交通緩和に繋げると定義されているが、確かに道路幅を拡張すれば大型車などがスムーズに通行できる。しかし大型車の交通量が増大し、また速度超過の車が横行するようになり危険度が増すことが想定できる。 他の地域(四日市市・いなべ市)では、地区内の企業と協力し、自社への通勤車や営業車は、生活路線への通行禁止や一方通行などで交通規制しており、住民への渋滞緩和や住民の安全に努力されている。 菰野町でも、主要企業と西警察署と協議をし、「交通弱者を守る観点」から取り入れることができないか検討してほしい。	道路の拡幅整備等に際しては、車だけでなく歩行者の安全にも配慮して計画していく予定です。
21	地域別構想 4-6 竹永地区	下記の項目2点を付け加える。 ●北勢中央公園へのアクセス道路の設置 ●北勢公園の適切な配置と緑化の推進・四日市市、いなべ市、本町にまたがる北勢中央公園は、町民の憩いの場・レクリエーション拠点として、整備促進を県に要望します。 公園・広場については、地域住民と協力し、安全で安心して遊べる子どもの遊び場や地域住民の憩いの場となる身近な公園・緑地の整備に努めます。	北勢中央公園へのアクセス道路の設置は町外の土地利用に関わる事項であるため、今後の課題として参考にさせていただきます。 また、北勢中央公園の整備促進は引き続き三重県に要望していきます。